

平成24年度 共に子どもを育む学校評価

学校の教育目標 「自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を持つ生徒の育成」

校訓
自 学 自ら学び、自己を磨く
敬 愛 自ら考え、礼儀正しく、人を愛し、自然を愛する
創 造 自ら判断し、よりよいものを創りあげる

4段階評価 5 期待以上 4 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1改善を要する

宮崎市立加納中学校

【自己評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策
				指導別	総合	
確かな学力の定着	わかる授業、個に応じた指導に努める。	○ 生徒による学校生活に関するアンケートにおいて、毎日の授業は「わかる」「楽しい」が75%以上である。	○ 教材等の工夫 ○ プリント自習の削減 ○ 研究授業の実施 ○ 少人数指導の充実	3.8	3.7	○ 生徒による学校生活に関するアンケート「毎日の授業はわかりやすく、楽しい」について「そう思う」「ややそう思う」と答えている生徒が、一昨年度来67%⇒78%⇒82%と増加のうえ目標を達成している。しかし、本来授業の分かりやすさの度合いとしては90%以上はほしいので、授業の工夫改善をさらに進めていきたい。 ○ 生徒による学校生活に関するアンケート「2分前着席や1分前黙想など学習ルールが守れている」についても「そう思う」「ややそう思う」と答えている生徒は、本年度も81%と昨年度程度の数値を維持している。ただし、学習規律として当然あるべき姿であると考え、8割では高い数値とはいえない。小中一貫して基本的な学習習慣の徹底を図ってきたい。 ○ 将来の夢を実現するために確かな学力の定着を図っており、その基礎としてのキャリア教育を推進している。体系的な進路学習は学級活動の中で確実に実践されており、各学年で職業人の講話や職場体験学習を実施し、大いに効果をあげている。 ○ 学力検査や意識調査の結果を分析し、教育相談の充実に役立てるとともに、日常的な個別指導に生かしている。さらなる夢の実現への支援や確かな学力の定着に努めたい。
	授業における学習規律の周知徹底を図る。	○ 生徒による学校生活に関するアンケートにおいて、「2分前着席」「1分前黙想」など学習ルールが守られているが85%以上である。	○ 準備、2分前着席の徹底 ○ 1分前黙想の徹底 ○ 姿勢、挙手、返事の指導 ○ 発表の推進 ○ 傾聴の徹底	3.9		
	キャリア教育の視点から3か年を見通した進路指導の充実に努める。	○ 1年生で5時間、2年生で8時間、3年生で7時間の体系的な進路学習に取り組む。	○ 進路指導全体計画見直し ○ 進路年間指導計画見直し ○ 職場体験学習の工夫・改善	3.6		
	諸検査の結果分析を行い、有効活用に努める。	○ 学力検査、意識調査の結果を分析し、個別指導や相談に生かす。	○ 教育相談の充実 ○ 個別指導の充実	3.2		

【学校関係者評価書】

No.1

評定	学校関係者評価コメント
4.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合評定は4でいいと思う。その中で個別指導の充実に努めていただければ保護者アンケートで「わかりやすい授業をしていますか」の評価で「そう思わない」が2%に増えることもなくなるのではないかと。 ○ 本当の「学力」は目には見えない。たとえ今は数字となって出なくても加納中の子どもたちは他の所と比べると確実に「学力」を持っていると信じている。 ○ 授業がわかりやすく楽しく過ごしていること、増加目標を達成していることを今後のさらなる目標に向けてほしいと思う。 ○ わかる授業では学年別、教科別の分析はできないか。学年によってめざす方向や指導方法が違ってくるのではと考える。 ○ 少人数授業には保護者の方々の感じ方もさまざまだが、「わかる授業」だと思う。 ○ 加納中の学力の定着や取組の高さは周知しているつもりだ。あえて言えば学習規律に対しまだ2割の生徒が自発的にルールを守りきれていないところを改善できればと思う。 ○ 学習規律の面では学校・家庭・地域どこでもできるような意識付けが大切である。保護者向けのアンケートに家庭での学習項目を追加してはどうか。⇒【学習時間の項目はある。】 ○ 働くことへの関心、意欲の向上、全てに生徒の学ぶ姿勢が感じられる。 ○ キャリア教育については卒業後の現実を考えれば実はまだ改善が必要ではないかと思う。進学後はまだまだ厳しい現実が待ち構えており希望を果たせる者は数少なく進路の修正に将来の夢をなくす学生もいる。さらに踏み込んで具体的な対処方法を説くとよい。 ○ 「気軽に相談に応じてくれると思うか」の問いに2割があまりそう思わないという点も改善の余地があるのでは。手立てにもあるように教育相談の充実に努めていただきたい。

											○ アンケートを見ると「1」という評価がすべてにおいて限りなく「0」に近いということはすごいことだと思う。5教科以外にも授業において美術など子どもたちの創作意欲をかきたてるように工夫されている。3年生になると技術家庭で映画作りや絵本を作って保育園で読んであげたりなどとてもすばらしい。職場体験も事前学習・体験・まとめ・発表といい経験をさせていただき、将来への夢を描きやすい環境を作っていたらと思う。
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

4段階評価 5 期待以上 4 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1改善を要する

【自己評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策
				指導別	総合	
生徒の自主的・自発的な活動の推進	生徒が存在感や達成感を実感できる、学級及び学年づくりに努める。	○ 生徒による学校生活に関するアンケートにおいて、「学校は生徒一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努力している」が80%以上である。	○ 生徒一人一人が活躍できる場や機会の工夫 ○ 教師の意図的な仕掛け	3.8	3.8	○ 生徒による学校生活に関するアンケート「学校は生徒一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努力している」について「そう思う」「ややそう思う」と答えている生徒が、一昨年度来72%⇒84%⇒86%と順次増加している。生徒は特に、体育大会や合唱コンクールなどの学校行事や生徒会活動、部活動における充実感を抱いている。あとはそれぞれが日常の学級生活におけるひとつひとつの取組にも存在感・達成感を味わうことができるように、さらに職員一丸となって取り組んでいきたい。 ○ 前述のとおり高い数値を示しており、「学校行事の充実」72%⇒80%⇒85%、「各種委員会の活性化」75%⇒87%⇒89%、「部活動は活発でいきいきと活動している」84%⇒89%⇒97%といずれも数値があがっている。今後とも生徒が参画できる場と時間を保証することで成就感・充実味の味あえる学校生活を送らせたい。
	生徒会活動の工夫・改善・充実に努める。	○ 生徒による学校生活に関するアンケートにおいて、「学校行事の充実」や「各種委員会の活性化」が85%以上である。	○ 生徒が参画する学校行事や専門委員会の工夫・改善 ○ ボランティア活動等の工夫・改善	3.5		
	全員部活動顧問体制で、指導の充実を図る。	○ 生徒による学校生活に関するアンケートにおいて、「部活動は活発でいきいきと活動しているか」が85%以上である。	○ 部活動集会やキャプテン会の開催 ○ ルールやマナーの遵守 ○ 信頼関係の構築	3.9		

【学校関係者評価書】

No.2

評定	学校関係者評価コメント
4.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ このまま継続していただきたい。 ○ 加納中の生徒の自主的活動については高く評価する。アンケートにもみられるように本人たちが学校生活や部活動等が充実していると感じているのがわかる。自主的に参画できている伝統が引き継がれているのは嬉しく思う。 ○ 昔より「勢い」というか積極性が少なくなってきたかなあという思いがある。もっと個性的であっていいと思うが、「皆と一緒に同じ」の方がきっと都合がいいのだろう。 ○ 自主的・自発的、大いに発せられていると思う。「かのうinフェスタ」での前日準備、当日参加、後片付け等部活動を通してのチームワークが伝わった。 ○ 体育大会や合唱コンクールなど感動した。とてもすばらしい。時間があればクラスマッチ、文化祭等できればと思う。生徒会も子どもたち自身が意欲的によく頑張っている。部活動もすごく頑張って上位に入賞、県大会、九州大会などにも行っているのですごい。自分の子どもを見ていると部活動で疲れて寝てしまい、でも朝早く起きて頑張って勉強している。中3の子は部活動を引退してからすごく勉強をするようになった。結果を出すことも大事だが部活動で培った粘りと根性、体力、すごいと思う。人への思いやり、協調性も。 ○ 体育大会、合唱コンクールでの生徒たちの自主性やチームワーク、個人技など先生方と生徒との一丸となった成就しようとする姿に感動した。 ○ 各種委員会の特色が教室や廊下の掲示物に見ることができる。

【自己評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策
				指導別	総合	
豊かな心の育成	道徳の時間の題材や指導方法等の工夫に努める。	○ 道徳の時間を100%実施するとともに、道徳的実践力を身に付けさせる。	○ 生徒の心に迫る授業の展開 ○ 学年間の共通認識 ○ 資料の共有化	3.3	3.2	○ 道徳の時間は実施率100%であり、道徳資料の情報交換や各学年での統一資料による研究授業の実施などを行った。よって、道徳の時間の題材や指導方法の工夫は充実しているが、生徒の心に迫る道徳の時間が行われているか、生徒の道徳的実践力が高まっているかが今後考えていかなければならない点である。
	読書活動の工夫・充実に努める。	○ 年間読書量一人5冊以上(12月現在)を達成する。	○ 朝の読書の充実 ○ 学校図書館の整備 ○ 生徒一人の読書量の拡大	3.0		○ 12月現在生徒一人あたりの年間読書量は6.2冊である。数値目標達成の上、昨年度より大幅に読書量が増加しており、図書室の読書環境の整備は進んでいる。本校の課題であった図書室の利用についても本年度はマナー向上の取組により大幅に改善された。今後は図書委員の自覚による生徒自らの読書活動の推進が課題である。
	人権教育の充実を図るとともに、人権感覚の高揚に努める。	○ 保護者による学校評価アンケートにおいて、「生徒一人一人を大切にし、認めている」が90%以上である。	○ ソーシャル・スキル・トレーニングの導入 ○ 委員会活動の充実 ○ 情報モラルやメディア教育等の充実	3.3		○ 保護者による学校生活に関するアンケート「生徒一人一人を大切に認めている」について「そう思う」「ややそう思う」という保護者が、昨年度と同様87%とよい傾向にある。実際に良好な人間関係の醸成が図られるよう努力を続けたい。
	「無音清掃」の徹底と美しい潤いのある教育環境づくりに努める。	○ 保護者による学校評価アンケートにおいて、「清掃が行き届き、整理整頓されている」が95%以上である。	○ 清掃の共働体制 ○ 学級設営の充実 ○ 生徒作品の掲示・展示	3.7		○ 保護者による学校生活に関するアンケート「清掃が行き届き、整理整頓されている」について「そう思う」「ややそう思う」という保護者が、本年度も98%と非常に高い数値を示している。宮崎市内では新しい学校としての美しさを保ちつつ、清掃指導にも一層力を入れたい。

【学校関係者評価書】

No.3

評定	学校関係者評価コメント
4.2	<p>○ 生徒の心に迫る道徳とは何をもって評価するか。目安となる物差しがなければ内容を変更してはどうだろうか。</p> <p>○ 具体的な例を用いてプリント等で学習しているのを見て全員参加で学習生活をしているのだなと思った。</p> <p>○ このまま継続していただきたい。その中で「読書」について朝の読書を充実していただき、本の良さを中学生の時から身につけさせていただきたいと思う。</p> <p>○ ソーシャル・スキル・トレーニングはもっと積極的に導入してもいいのではないかと思う。発達障害を持っていない子でも「人の関わり方」をどうしたらいいか戸惑っていることは多いのではないかと思うので。そのことによって自分の意思を伝える、他人の意思を受け入れることができ、心の交流がはかれると思う。</p> <p>○ 人権教育は生徒のみならず保護者、先生を含めた一人一人の人間としての課題なので、今後もいろいろな機関からの情報収集と意識改革のための学習会(人権擁護委員会など)を提案する。⇒【人権教育推進委員会を行っている。】</p> <p>○ 校内の清掃状況等から生徒たちの落ち着きを感じる。生徒の自主的活動も心の育成につながっていると思う。ただし、小中一貫の様子から人間(友人)関係に変化がなく卒業後の適応性に少し不安を感じる。やさしい気持ちと折れない心を育まなくては進学後中退や無職青年を生んでしまう。その点については何か策を講じているのか。⇒【この自己評価にも表れているとおりあらゆる教育活動を通して育むように取り組んでいる。】</p> <p>○ 年に何回かしか伺えていないが常にきれいに整理整頓が行き届いていると思う。季節によって花等、学校入口からそのよさが伝わる。</p>

【自己評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策
				指導別	総合	

【学校関係者評価書】

No.4

評定	学校関係者評価コメント
----	-------------

家庭・地域等との連携	保護者や地域等への情報発信に努める。	○ 学校便り、学年・学級通信等を定期的に発行する。 ○ HPを定期的に更新する。	○ 魅力ある学級 学年・学校だより・HPの工夫 ○ 迅速かつ的確な対応	3.8	3.8	○ 学校便りは月に一回、学年・学級通信は回数に違いはあっても定期的に発行され、保護者や地域への情報発信に努めている。HPの更新が停滞気味なので、担当者だけでなくいつでも誰でも改正できるシステムを作り上げ、日常的な保護者・地域への情報提供にも心を砕きたい。	3.8	○ 学校便りをいただき大変感動している。まだまだ能力をひきだせていない生徒がいるような気がする。
	関係諸機関との連携を図り、協力体制の確立に努める。	○ 会合への参加、協議会の実施を推進する。 ○ かのう in フェスタへの職員・生徒の積極的な参加を促す。	○ 加納地域まちづくり協議会、青少年育成協議会、民生委員・児童委員協議会等との連携	3.7		○ 各関係機関との密なる協力体制を維持し、特別支援教育や不登校に関わる専門機関とも積極的に連絡をとっている。特に、地域の学校としての役割を意識し、地域の各団体とはPTAとともに学校としても連携に努めている。加納地域まちづくり協議会などの会合には参加し、加納地区青少年育成協議会は学校に事務局がおかれている。また、学校から呼びかけにより民生委員・児童委員および保護司との会議を行っている。		○ 地域に開かれた学校を今も各体制の中で推進している。しかし一番身近な保護者にまだ 15%通信が渡されていない（生徒が渡していない）、1割が状況を把握できていないと感じているところは改善の余地があると思う。特に2割の子どもたちが学校のできごとを家族に話しているとあまり思わないとの結果、家族・地域との連携でさらに保護者も地域も生徒や学校の様子を周知できるようにしてほしい。
	学校関係者評価を活用し、学校運営の改善に努める。	○ 年度末に自己評価並びに学校関係者評価を実施し、保護者・地域の方々への公表を行う。	○ 評価項目やアンケート等の工夫・改善 ○ 意見交換会の実施 ○ 評価結果の公表	3.7		○ かのう in フェスタには中学生も吹奏楽や出店での参加をするだけでなく、地域の一人としての参加や準備・片づけへの尽力など全面的に協力体制を構築している。		○ 家庭、地域等との連携については大変素晴らしい成果と思う。特にPTA、青少協、民児協との組織の強化面では学校運営の基盤が確立されている。
	加納小と連携し、9か年を見通した一貫指導に努める。	○ 次年度の小中一貫教育に係る研究公開に向けて、生徒指導の機能を生かした授業づくりに努める。	○ 合同研修会や研究授業の充実 ○ 職員の授業派遣 ○ 研究公開の準備	3.7		○ 学校評価は計画的に自己評価・学校関係者評価を行い、年度末に公表する。保護者・地域への開示により、学校運営の改善に資することができればと考えている。		○ 加納地域行事になりつつある「かのう in フェスタ」への加納中学生の協力は非常にありがたく、大人も見習う必要さえ感じている。HPの更新よろしくお祈りしたい。

【自己評価書】

○ 次年度の方向性についての校長所見
本年度、宮崎市教育委員会指定研究学校研究公開を次年度にひかえ、加納小学校との研究の上での連携を図った結果、生活面での連携を下支えとして学力向上のため、小中一貫教育による生徒指導の三機能を生かした授業の構築に取り組んだ。学力向上では昨年度同様、成績的に向上させるという意味での学力向上ではなく、夢に出会う機会を企画し夢をつかませることに焦点をあてた教育の中で、夢の実現を可能とする学力向上に努めていく方向性を踏襲している。したがって、小中連携による研究主題を「豊かな心を持ち、自ら進んで思考・判断・表現できる児童・生徒の育成」として、生きる力の育成に小学校とともに尽力した。
学力の面でも生徒指導の面でも数値的には非常に良好であるが、現実の学校生活においては確かな学力の定着が全体に行きわたっていると断言することはできないし、人間関係においては場面、場面で難しい状況下にあることは否めない。よって、次年度も生徒の自主的自発的な活動による学校生活の充実と豊かな心の育成に家庭・地域との連携を図って取り組んでいきたいと考える。

【学校関係者評価書】

1 本年度の取組について
○ 全体的には本年度は計画された事に対し「ほぼ期待どおり」であるが全てよく取り組まれた結果と思う。
○ アンケートからも前年度より改善された内容が多く、先生方の努力のおかげだと思っている。
○ 地区の清掃や行事に中学生のジャージ姿を多く見かけるようになった気がする。勉強や部活で忙しいだろう中、参加してくれてありがとう。参加させて下さってありがとうございます。
○ 学校そして家庭での教育がとても充実している感が伝わった。先生や保護者・子どもの努力が実ったのではないかなと思う。
○ 主任児童委員・人権擁護委員を兼ねて学校関係者評価委員をしているが、まだまだ学校との関わりが不足していると反省している。本年度は参観日への参加を中心に生徒や保護者の様子を観察してきた。
○ いずれも加納中学校の生徒ならではの自己啓発や学力向上をもって素晴らしい活動、取組だと思ふ。
2 次年度への改善に向けて
○ 学力についてはかなり向上していると思う。これは小中連携のメリットだろうが、デメリットとして「心の強さ」が足りていないのではないだろうか。中学卒業後までも考えた教育・指導も今後必要かと思う。
○ 生徒・保護者・学校、この関係にまだ改善の余地がありそうだ。相談しやすい環境、学校づくりの強化、また他の環境との交わりへの適応力アップ、進路（夢）に向けより具体的な道筋の示し方（ただ勉強すれば、進学すればよいのか）。学習時間や家の手伝いといった家庭による教育力のアップも課題。（塾に行っている生徒は学習時間が多く自宅での自主学習時間は少ないとはなっていないか）
○ みんな「いい子」だがおとなしく小さくまとまっている感じがして少し残念だ。と思うのは贅沢だろうか。それぞれが個性を発揮しあって積極的な雰囲気ができるといいなあと思う。
○ 今後も学校・家庭・地域がさらなる協働体制で取り組まなくてはと思う。
○ 次年度は地域での生徒との関わりや主任児童委員を活かした健全活動を中心に更なる自己啓発を向上させ評価委員として邁進していく。
○ まだまだ続く心の問題について「豊かな心の育成」を望むものである。